たんば田園シネマシアターVol.4

3.11への想いを胸に

映画 遺体 明日への十日間

2011年3月11日 あの未曾有の災害に直面し
困難な状況と向き合った人々がいた
彼らには悲しむ時間さえ無かった
これは報道が伝えきれなかった命の証

3月15日(土) 全席自由

①10:00～ ②13:00～ ③16:00～ ④19:00～
開場は各30分前 (上映時間1時間45分)

前売800円 当日1,000円

ホールの大画面(5m×9m)で迫力の感動作品をご覧ください!

たんば田園交響ホール 079-552-3600 篠山市北新町41
http//www.city.sasayama.hyogo.jp/denen/index.html

■主催：篠山市

プレイガイド

篠山市内(079)
小山書店 ……552-0019
木下楽器 ……552-0321
森本書房 ……552-0125
紙ふうせん……554-3340
篠山市民センター……554-2188
バザールタウン篠山NEWS館…594-3700
JA丹波ささやま旅行センター…594-3090
TSUTAYA篠山店……590-2451
黒豆の館 ……590-8077
こんだ薬師温泉ぬくもりの郷……590-3377

丹波市内(0795)
春日文化ホール……74-1050
かいばら観光案内所……73-0303
丹波の森公苑……72-2127

三田市内(079)
阪急オアシスえるむプラザ店……565-1148

ローソンチケット
0570-084-005(Lコード:59462)

一人のジャーナリストが取材した事実を基に報道が伝えきれなかった事実を描く

2011 年 3 月 11 日　14 時 46 分 18 秒　マグニチュード 9.0　最大震度 7
日本の観測史上最大の地震により、最大 40 メートルの津波が東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。舞台となるのは岩手県・釜石市にある廃校となった中学校の体育館。釜石の地形は壊滅的な被害にあった地域と難を逃れた地域が、１本の川を挟んで２つに分かれています。災害が起きた当初、残された市民たちは津波の状況を把握出来ていない中で、同じ町に住んでいた人々の遺体を搬送し、検死、ＤＮＡ採取、身元確認を行わなくてはならない状況となりました。犠牲になった人たちの尊厳を守りながら一刻も早く家族と再会させるため、懸命に尽くしました。同じ被災者でありながら、つらい役割、現実を担わざるを得なかったのです。
原作はジャーナリスト・石井光太氏の著作『遺体　震災、津波の果てに』（新潮社刊）。当時の報道では伝えきれなかった東日本大震災の知られざる事実を描いたこの壮絶なルポルタージュ本を読んだ君塚監督はこの事実の中にある真実を映像を通して伝えるべきだと確信、製作に当たっては何度も現地を訪ね、実在のモデルとなった方々のもとへ足を運び新たに取材を行いました。「未曾有の災害に直面し、立ち向かった人たちの姿を多くの人に伝えたい。災害や被災地への関心を薄れさせてはいけない。その想いを胸に作りました」と語る君塚監督のもとに西田敏行をはじめ緒方直人、勝地涼、國村隼、酒井若菜、佐藤浩市、佐野史郎、沢村一樹、志田未来、筒井道隆、柳葉敏郎（50 音順）ら日本を代表する俳優人が賛同、後世に遺すべき作品を作りました。

主演：西田敏行より
最初にルポの本を読ませていただいたとき、「これを映画化するというのは大変難しいだろう」と思いました。ご遺族の方々の心情を考えると、劇化するというのは「果たして正しいのかどうか」という判断には非常に迷いました。ニュースの映像などで冷静な被害状況や数値は伝わってくる中、被災された方々の本当の気持ちや真実は、逆に劇化することによって“事実”とは違う“真実”が引き出せるのではという想いが沸き立ってきました。そういった想いがだんだんと大きくなり、この作品の映画化のオファーに対し「これは映画化しても良いものだろう」と、決心に変りました。
今、出来上がった作品を観て、そういった「日本人の生死観」を描いたドラマといっても過言ではないと思っています。

西田敏行
緒方直人　勝地涼　國村隼　酒井若菜　佐藤浩市　佐野史郎
沢村一樹　志田未来　筒井道隆　柳葉敏郎（五十音順）
原作：石井光太「遺体　震災、津波の果てに」（新潮社刊）　脚本・監督：君塚良一